

岩手県赤十字血液センター

なぜ献血が必要なの？



献血によっていただいた血液のほとんどは、病気や薬の影響などで十分に血液をつくることができなかったり、事故や手術などで大量出血したりする患者さんのもとへ届けられます。血液を安定してお届けするためには、毎日多くの方からの献血協力が必要です。なぜなら、血液は長期保存することも人工的につくることもできないからです。

献血にかかる時間は、400mL献血で40分ほど。実際に針を刺しているのは平均 5～15分。確かにチクッとした痛みはありますが、苦しんでいる患者さんを助けたいという気持ちがあれば乗り越えられるはずです。献血は、県内を巡回している献血バスが盛岡市の献血ルームメルシーで行うことができます。詳しくはホームページをご覧ください。

近年、特に10代～30代の若い方々の献血が減っています。ご家族、お友達同士でお誘い合わせのうえ、ご協力をお願いします。

日赤岩手乳児院

ボランティアさんの大きなあたたかい支え

毎週 1 回、子どもたちに笑顔届けに来てくださいます。今日は、中村さん手作りのエプロンをみんなでつけました。

エプロンは、裏にタオルが付いた二重のもので、子どもたちの肌に優しく作られています。

エプロンをつけてもらおうと、子どもたちから嬉しそうな笑顔が見られました。



ボランティアの中村さん

先日、カットボランティアさんに、子どもたちの髪を切っていただきました。子どもたちの中には、初めて体験する子も多く、終わるまでずっと泣いている子もいました。髪を切り終えた子どもたちは、「かわいい?」や「チョキチョキしたの〜!」と、とても嬉しそうに教えてくれました。



ボランティアのボーイプランニングさん

特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘

雫石町赤十字奉仕団の皆さまに支えられて30年

昭和60年から今日まで、特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘に心あたたまるボランティア活動を継続してくださっているのが、雫石町赤十字奉仕団の皆さまです。

活動内容は、毎月行う利用者さまの誕生会での歌と踊りの披露です。利用者さまが毎回とても楽しみにしている心躍る時間です。また毎月 1 回、おはなしボランティアとして当園の利用者さまとお話の時間を持っていただき、利用者さまのとてもよい気分転換になっています。その他、鶯鳴荘祭での炊き出し、作品作りなどにも積極的にご参加いただいています。

奉仕団の皆さまは、いつもお忙しい中、笑顔とたくさんの笑いで私たちを元気にしてくださり、職員も学ぶことがたくさんあります。

これからも雫石町赤十字奉仕団の皆さまのお力をお借りしながら、利用者の皆さまが楽しく元気に施設生活が送れるよう交流の充実を図っていききたいと思います。



昭和60年に雫石町赤十字奉仕団の前身「野菊の会」が結成され、平成7年に現在の雫石町赤十字奉仕団が設立されました。奉仕団員の皆さまのあたたかいお心にいつも守られています。

平成28年度 日本赤十字社岩手県支部 東日本大震災復興支援事業

日本赤十字社岩手県支部は、平成28年度も継続して「海外救援金」を活用した復興支援活動を行っています。

1	赤十字奉仕団等ふれあい交流会 (継続事業) 各赤十字奉仕団が随時実施	仮設住宅にお住まいの方々に対して、各赤十字奉仕団が特色を活かした催しを企画。歌や踊り、マッサージをとおして交流を図ったり、あたたかいお食事を提供したりすることでより多くの住民に集まっていただき、コミュニケーションを持てる場を提供する。
2	ノルディックウォーキングとこころのケア (継続事業) 毎月5～6日間(1日2会場) 仮設団地を訪問	病気やけがの予防を含めたこころと体の健康づくりを支援。 また、運動と併せて季節のイベント等(季節の行事に因んだ催し物、体操)を行うことで、住民同士の交流を促進し、抱える健康不安などにも傾聴しながらストレスの軽減を図る。
3	盛岡赤十字病院職場体験 (継続事業) 8月9日(火)	将来、医師や看護師など医療従事者を目指す沿岸の中学生・高校生に実際の医療現場を体験してもらい職業観を育むこと、また、主体的に将来の進路選択ができるよう支援する。併せて赤十字が行う事業・活動についても理解を深めてもらう。
4	サマーキャンプ2016 in いわて (継続事業) 7月27日(水)～29日(金) 於:国立岩手山青少年交流の家	沿岸の小学生、中学生を滝沢市にある国立岩手山交流の家に招待し、日常生活を離れた自然の中で体を動かしながらのびのびと友達と過ごしてもらう。リーダーシップ・トレーニング・センターに参加中の児童・生徒とも交流し、この生活をとおして、共に気づき・考え・実行するといった青少年赤十字の態度目標のもと、主体性、人を思いやる心、協力することの大切さ、赤十字について学ぶ。

東日本大震災から 5 年、赤十字が行う防災・減災への取り組み

「いのちを守るプログラム」のご案内

赤十字にご支援をいただいている自治会、町内会、学校、企業・団体さまは、原則無料で実施します。

日本赤十字社岩手県支部では、さまざまな講習と防災啓発プログラムを組み合わせた「いのちを守るプログラム」を実施しています。地域のイベント、町内会、企業、学校での研修会で、皆さまのご要望に合わせた内容と時間で開催します。

災害時に自らを守る「自助」、お互いを助け合う「共助」を学び、防災・減災への意識を高め、確かな備えができるよう知識と技術を皆さんと一緒に身に付けましょう。

ぜひ、お気軽にお問い合わせください。

※短時間のプログラムをご希望される場合、各プログラムの性質上、ご要望のあった内容の組み合わせが出来ない場合があります。この場合はご相談のうえ対応いたします。

Ⅰ 救急法



- I-① 心肺蘇生と AED
- I-② のどに物が詰まったら
- I-③ けがの手当て
- I-④ 骨折やねんざの手当て
- I-⑤ けがをした人の搬送
- I-⑥ 急病時の手当て

Ⅱ 健康生活支援



- II-① 高齢者に多い病気
- II-② 高齢者に多い事故・応急手当
- II-③ 介護予防
- II-④ 認知症の理解と対応
- II-⑤ 癒しのリラクゼーション

Ⅲ 幼児安全法



- III-① 子どもについて
- III-② 子どもの事故と予防・応急手当
- III-③ 子どもの病気と看病
- III-④ 子どもの心肺蘇生と AED
- III-⑤ 子どものどに物が詰まったら

Ⅳ 防災啓発プログラム



- IV-① 炊出し訓練
- IV-② 災害図上訓練 (DIG)
- IV-③ 過去の災害追体験 (災害エスノグラフィー)
- IV-④ 防災セミナー (地震災害)
- IV-⑤ 防災セミナー (風水害)

★ 町内会での防災講座	⇒	IV-② 災害図上訓練 (DIG)	+	I-⑤ けがをした人の搬送
★ 学校・PTA	⇒	I-① 心肺蘇生と AED	+	IV-⑤ 防災セミナー (風水害)
★ 一般企業等①	⇒	I-① 心肺蘇生と AED	+	IV-④ 防災セミナー (地震災害)
★ 一般企業等②	⇒	III-① 子どもについて	+	III-② 子どもの事故と予防・応急手当
★ 福祉関連施設	⇒	I-② のどに物が詰まったら	+	II-② 高齢者に多い事故・応急手当
★ 幼稚園・保育園	⇒	III-③ 子どもの病気と看病	+	III-④ 子どもの心肺蘇生と AED

平成28年熊本地震災害義援金 ～心あたたまるご寄付をありがとうございます～

●義援金の受付は平成29年3月31日(金)までです●

この度の熊本地震災害に対する義援金をお寄せいただきまして、誠にありがとうございます。7月上旬までに当支部で受理いたしました分につきまして(10万円以上)ご紹介をさせていただきます(敬称略)。

氏 名	金 額
岩手県競馬組合 岩手県調騎会	2,290,429円
株式会社 岩手銀行	5,000,000円
公益財団法人 岩手県対がん協会	150,000円
公益財団法人 岩手県対がん協会かがやきの会	
一般社団法人 岩手県薬剤師会	4,287,090円

赤十字いわて

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

「新鮮な空気はおいしいね～」
気分さわやか足どり軽く！

ノルディックウォーキング「春の交流会 2016 in 遠野」を開催



平成24年 5月に初めての交流会が開催されてから、今回で9回目となります。

普段は仮設団地を訪問して、病気やけがの予防を含めたこころと体の健康づくりを支援する目的でノルディックウォーキングを行っています。春と秋には、各仮設団地の皆さんを内陸部にご招待して、大自然あふれるウォーキングコースを歩いていただいています。

今回は陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町の皆さんと、岩手県ノルディックウォーキング赤十字奉仕団、遠野市赤十字奉仕団、支部職員を含む総勢59名が、伝承園駐車場からカップ淵・常堅寺を経てたかむろ水光園までの約3kmをウォーキングしました。好天に恵まれ、田植えもひと段落した静かな田園風景やさわやかな新緑を眺めながら心地良い汗をかきました。

ウォーキングを楽しみながら、「家が建つまでまだ2年くらいかかる。それまで元気でいたい」「津波で父さん(夫)が亡くなった。夫婦の人を見ると寂しい」「流された家のローンを今も払っている。79歳の夫は今も働いている。新しい家は無理かな」と、不安や辛い気持ちを口にする方もいらっしゃいました。

震災から5年が過ぎてなお大変な思いをされている方々がいます。土地の造成工事の遅れなどで仮設住宅に住まざるを得ない方々は、狭い部屋での生活に高齢による足腰の衰えなどが加わり生活不活発病になり兼ねない状態です。気持ちを明るくし、積極的に動きたくなるような楽しみが今も必要とされています。私たちは震災を経験した方々の声に耳を傾けて、その辛い経験を未来へとつなげていけるよう、考え行動していかなければなりません。



遠野の大自然に癒され、皆さんの顔からやさしい笑みが！

赤十字ふれあいフェスティバルを開催

▶5月22日(日) イオンモール盛岡

体験をととして赤十字の仕事、活動を知っていただく！理解を深めていただく！と、今年も盛りだくさんのプログラムを用意し、皆さまをお迎えすることが出来ました。

ドクターのお仕事体験では、子どもたちが盛岡赤十字病院医師の手ほどきを受けながら、内視鏡操作、縫合体験に取り組みました。

可愛らしい表情から一変、医師と一緒に画面を見るその鋭い眼差し、ただ黙々と手を動かし集中する姿には、親御さんたちもとても驚いた様子でした。

妊婦さん体験では、いのちの重さを体験していただきました。「わあ〜、重たい。おなかの中で赤ちゃんを育てるお母さんってすごい！」「赤ちゃんってこんなに小さいの！？」子どもたちの驚きの中に見えるやさしい表情が印象的でした。

恒例となりました岩手県立不来方高等学校音楽部による合唱は、聴く人の心を穏やかに優しい気持ちにさせてくれました。「最近、世界は災害やテロといった暗いニュースばかりなので、私たちの歌で皆さんの心を明るくしたいという気持ちで歌いました！」とさわやかな笑顔で一人の部員がお話してくれました。

この他、無線操作体験、ノルディックウォーキング体験、救急法ミニ講習、高齢者疑似体験、キャップハンディ体験などが行われました。



体の中の迷路をカメラで探検！

平成28年度 第1回評議員会を開催

▶6月9日(木) エスポワールいわて

佐々木副支部長(県保健福祉部長)をはじめ評議員18名が出席して開催されました。岩手県支部、盛岡赤十字病院、岩手県赤十字血液センター、日赤岩手乳児院、日赤鶯鳴荘の平成27年度事業報告と決算についてご審議をいただき、事業報告及び決算につきましては原案どおり承認されました。



その他活動の様子は、随時「日赤岩手県支部ホームページ」に掲載させていただきます！

日赤岩手県支部

検索

平成28年熊本地震 盛岡赤十字病院医療救護活動報告

救護班

第1班

派遣期間：平成28年4月19日(火)～4月24日(日)
メンバー：医 師 1名(循環器科、DMAT※1)
看護師 3名(DMAT 2名、こころのケア 1名)
薬剤師 1名
調整員 2名(DMAT 2名)

平成28年4月19日 出動 陸路と空路で、仙台から福岡を経由し、日本赤十字社熊本県支部へ
4月20日 熊本赤十字病院 救急センターで診療活動
4月21日 石巻赤十字病院と西原村内dERU※2で診療活動
4月22日 西原村内の避難所を巡回診療と併せてエコノミークラス症候群の予防啓発活動
4月23日 撤収作業、熊本赤十字病院から福岡市内へ
4月24日 空路と陸路で、福岡から仙台を経由し帰還。病院で記者会見



※1 DMAT…災害の急性期(48時間以内)に活動できる機動性をもった、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム。
※2 dERU…仮設診療所設備とそれらを運ぶトラック、訓練を受けた医師・看護師などの総称。抗生物質などの医薬品を装備し、1日150人程度の傷病者に対して3日間の治療が可能。

救護班

第2班

派遣期間：平成28年5月1日(日)～5月6日(金)
メンバー：医 師 1名(外科、DMAT)
看護師 3名(DMAT 1名、こころのケア 1名)
薬剤師 1名
調整員 2名(DMAT 1名)

平成28年5月1日 出動 陸路と空路で、花巻から熊本を経由し、日本赤十字社熊本県支部へ
5月2日 益城町総合体育館・益城町商工会で巡回診療、エコノミークラス症候群の予防啓発活動や熱中症予防のための水分補給等の啓蒙活動
5月3日 益城町総合体育館裏でテント生活の方への巡回診療とエコノミークラス症候群の予防啓発活動や健康相談
5月4日 益城町総合体育館駐車場で車中泊の方へ巡回診療とエコノミークラス症候群の予防啓発活動
5月5日 益城中央小学校で救護所活動、避難所巡回診療 福岡市内へ
5月6日 空路と陸路で、福岡から花巻を経由し帰還



熊本地震災害救護班での活動

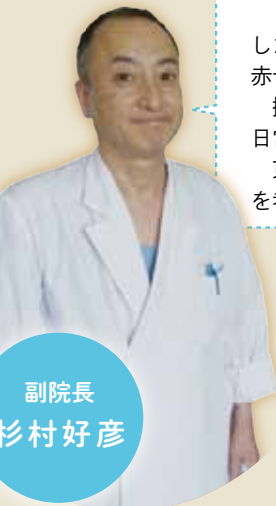
第一循環器科部長
兼
医療社会事業部長
齋藤雅彦

東日本大震災以来、大災害の起こらないことをいつも祈っていました。しかし「災害は忘れる前にやってくる」昨今です。日赤救護班として超急性期をわずかに過ぎてからの出動でしたが、まだまだ混乱の残る現場でした。日赤以外の組織や他の日赤チームと緊密に連携しながら、現地での診療や保健衛生活動に携わる貴重な経験を得ました。優秀な救護班員と真心あふれる院内スタッフに支えられたことに、深く感謝しています。



熊本赤十字病院医療業務支援活動報告

4月25日から5月1日の日程で熊本日赤病院救急センター医療支援に行ってきました。震災により熊本日赤医療圏の中で4病院が緊急対応ができなくなり、全国の赤十字病院から医師8名、看護師30名、主事4名がこの第二次派遣に参加しました。搬送疾患としては震災関連(血栓症、転落、自宅の片づけ時の外傷など)のほか日常の緊急疾患も多く搬送されました。東日本大震災と性質の違う震災派遣を経験し、改めて震災に対する準備の大切さを考えさせられました。



副院長
杉村好彦

熊本赤十字病院看護師業務支援活動報告

4月30日～5月4日までの5日間、東日本大震災で全国から支援をいただいた恩返しができるほどの思いを抱き熊本赤十字病院救命救急センターでの業務支援に参加しました。震災直後の混乱を乗り越え、平常を取り戻したように見える熊本赤十字病院でしたが、職員の4割が被災しながら勤務が続けているとのことで、長期的な支援の必要性を感じました。全国から集まった医師や看護師との活動を通し、赤十字の組織力を再確認し心強く感じることができました。



手術室係長
斉藤美香



岩手から、地元熊本のチカラとなるために

私の出身地である熊本県が被災し、私にも何かできることがあれば今回救護班メンバーに加えて頂きました。実際に現地へ行ってみると高齢のご夫婦が車中泊をしていたり、多くの方がテント内で生活をしていたり被災者の方々は声に出さず、じっと耐えている姿を肌感じました。チームメンバーの思いと力を合わせ「私達にできること、求められていること」を考えました。優しく声を掛け続けるメンバーの背中を見て、押し付けではない寄り添う援助の大切さを知りました。それ以外にも、救護活動では多種多様な救援チームとの活動調整や被災者のニーズをくみ取り行動に移す力が必要であることを学びました。



エコノミークラス症候群予防の弾性ストッキングが好評